

最終公開審査対象応募案件改善アドバイス

2018年4月24日
COG2017 審査委員会

I. 総論

<ファイナリストチームへのメッセージ>

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら13案件の今後の課題は総じて、(1) アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、(2) COGでは社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリリースの範囲で検討してみること、(3) アイデアの実現フェーズに移行するには(1)の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス2017フェーズ2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

自転車をつなぐ人・街・自然・文化! ～ chariP naViと共創コミュニティデザイン ～

(応募チーム：京の歴史と街並みをつたえ隊)

(特徴)

古都京都ならではの魅力を自転車を活用して発見していく新しい文化を提唱するとともに、日常生活においても自転車活用による環境にやさしい街づくりに貢献したいというアイデアに特徴がある。

1. 私たちの解決策と重視したポイント

解決策	自転車に関する必要な情報の見える化!
	・駐輪場やレンタサイクル等の自転車環境の「見える化」 ・住民、観光客の安心・安全に関する情報の「見える化」

①徹底した
デザイン思考プロセス

②オープンデータを介した
コミュニティのデザイン

平成30年3月4日(日) チャレンジ!オープンガ(ナンス2017)資料

(アドバイス)

(1) 継続的取組への期待

本プロジェクトの市民側の体制は、これまで基本的にボランティアで進められてきました。しかしこれからは本格的な実施段階を迎えます。関係者の協力を得て週末のボランティアを基礎としつつも、継続的に取り組んでいくには新たにどのような枠組みを作るのが望ましいか、場合によっては学生との連携や一定の資金的基礎の確保なども視野に入れて検討していただけたらと思います。

（２）アイデアのブラッシュアップ

自転車利用にあたって、①観光客と住民の要望を具体的に取り入れる仕組みを盛り込んだ、より利用されるアプリへの改良、②より便利で安全な自転車の使い方の利用者へのアドバイス機能（例えば夜間の点灯の音声ガイド）、③自転車利用に適したマップの見やすい提示、④将来的な交通習慣の見直し、などさらに検討する事柄も多く、それらを包含した自転車データ総合ターミナルとして提案された携帯アプリが成長していくのも可能性としては有効かと思います。

（３）プラットフォーム機能としての市役所への期待

本プロジェクトについては、これまでも京都市では、データ提供、知識提供、場の提供、関係機関との調整や周知・広報、さらにはお宝バンク事業等によるアイデアコーディネートなどプラットフォームとしての役割を担ってこられ、これが基盤となって総合賞に結びついたところがあります。今回はオープンデータの利用という意味で統計解析担当が自治体側の窓口を務められましたが、引き続き同担当がこの窓口が担われ、ほかの関係部署との連携を図っていかれることが、ビッグデータ時代を迎える中でこれまで相対的に地味であった統計解析の分野に光が当たるという意味で有意義だと思えます。

なお、行政の特徴として、人事異動があり、担当が変わるケースがありますが、その場合でも組織の力を発揮して引き続き、プラットフォームとしてこのプロジェクトを支えていかれることを期待いたします。こうした協働がモデルとなって、京都市の他の事業での市民との協働の一つのモデルとして、発展していくことを期待しております。